

「美術の教育／教育の美術」展関連企画
シンポジウム「京都の近代化遺産－近代化を支えた人びと」

歴史都市と呼ばれることの多い京都は、どうしても古い社寺や古美術が注目を集めがちです。一方で、そのような古都イメージと現代社会の狭間にある近代－明治時代から戦前期－の京都にはなかなか注目が集まりません。しかし、この近代に古都京都は大きな飛躍を遂げます。

近代の京都は、学校制度をいち早く導入し、博覧会を他の都市に先駆けて開催するなど、進取の気性に富んだまちでした。天皇の「東幸」という危機に直面したからこそその動きであったとはいえ、新しいものを積極的に取り込んでいます。美術工芸という側面にだけ注目しても、さまざまな試みを大胆におこなって、文字通りの「近代化」を達成します。

今回のシンポジウムでは、この近代の京都に注目をします。いずれも近代京都の美術工芸の発展に大きな役割を果たした千總（弘治元年〈1555〉創業）、島津製作所（明治8年〈1875〉創業）、便利堂（明治20年〈1887〉創業）、芸艸堂（明治24年〈1891〉創業）に焦点をあてて、その活動がどのようなもので、どのような先進的な意義があったのかを考えてみたいと思います。さらに、そこでなにが生み出されて、なにが忘れられていったかということを明らかにしてゆきます。

このシンポジウムを通して、近代京都の様相がすこしでも明らかになり、わたしたちの身近にある近代化の足跡にあらためて光が当たることを祈っています。

企画・主催：「京都の近代化遺産」発信プロジェクト実行委員会

共催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

助成：令和3年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業

◇実施形式

※Zoom Meetings システムをつかったオンラインシンポジウムです。ご参加までに各自で利用環境を整えていただきますようお願いいたします。

◇参加の申込方法

※事前申込制

※先着 50 名（定員に達し次第、締め切ります）

※京都工芸繊維大学美術工芸資料館のウェブサイトに専用申し込みフォームを設置しています。そちらからお申込み下さい。

→京都工芸繊維大学美術工芸資料館ウェブサイト

<https://www.museum.kit.ac.jp/>

◇参加費

無料

問い合わせ先

京都工芸繊維大学美術工芸資料館事務室

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

TEL：075-724-7924

（お申込みはウェブサイトからお願いします）

> 京都工芸繊維大学美術工芸資料館ウェブサイト

<https://www.museum.kit.ac.jp/>



開催日程：2021年10月3日（日）

13:00 開場

13:30～14:00 開会挨拶・趣旨説明・展覧会紹介

並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館・館長）

14:00～14:20 パネル発表「明治期の染織品一博覧会への出品と百貨店との商売を中心に」

小田桃子氏（千總文化研究所・研究員）

14:20～14:40 パネル発表「明治期における高等教育機関への教材提供と教授らとの結びつき」

川勝美早子氏（島津製作所 創業記念資料館・学芸員）

14:40～15:00 パネル発表「写真を使った美術出版の始まりと便利堂の展開、

そしてコロナタイプによる文化財保存」

山本修氏（株式会社便利堂コロナタイプ研究所・所長）

15:00～15:20 パネル発表「美術工芸界向けの出版事業の概要と教育現場での利用について」

早光照子氏（美術書出版株式会社芸艸堂）

休憩

15:40～17:00 ディスカッション

司会：井戸美里（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系・准教授）

パネリスト：小田氏、川勝氏、山本氏、早光氏、並木

17:00 閉会挨拶